

## 世界遺産における道路等建設問題

奈良文化財研究所

## 1 世界遺産条約における「危機に瀕する世界遺産リスト」

実例：インド ハンピ記念物群

Groups of Monuments at Hampi (India)

ハンピの考古学遺跡地区内に二本の吊り橋を架ける計画が浮上。世界遺産委員会からインド政府へ、遺跡の直面する危険性を減ずるよう要請。

現在は、吊り橋計画は中断。しかし、開発と保存とのバランスを取る方法を検討する必要は残されている。

## 2 世界遺産における道路等建設問題とその解決

エジプト ギザのピラミッド

Memphis and its Necropolis the Pyramid Fields from Giza to Dahshur (Egypt)

- ・道路建設の問題が1994年に起こる。カイロのリングロードとギザ西郊のニュータウンとを結ぶ道路をエジプト住宅省が計画。ギザのピラミッドの近隣に橋を建設する計画だった。エジプト文化省が反対し、計画反対の国際世論が起こる。ムバラク大統領は、解決をユネスコ世界遺産委員会に依頼。
- ・1995年4月、ユネスコは世界遺産委員会使節団を派遣。エジプト政府とWHCとの共同宣言が出され、計画はキャンセルに。その際、4つの代案を検討。いずれもピラミッド台地を横切らず、かつMariouteyyaおよびMansoureyya運河を通るルート案となっている。代案を示す文書ではD案が推薦されている。
- ・1998年9月6日、古代遺跡最高評議会からユネスコへ書簡。迂回路案の詳細の研究団の派遣とそこへの技術的アドバイスを要請。同年10月3日、ユネスコ使節団がカイロへ。エジプト関係省庁とWHCとの共同声明において、1995年のWHC使節団による代案の再確認をした。しかし、実現されぬまま、現在に至る。
- ・2001年6月頃、エジプト政府がオープンカットの地下道あるいはピラミッド台地の地下トンネル計画を立案。2002年6月現在、エジプト政府は地下15~20mのトンネル案を主張。余談を許さない状況。